

# ロシア極東経済と朝鮮半島(後編)

富山県貿易・投資アドバイザー 白鳥正明

本稿はウラジオストク市の「ゾラトイ・ログ」新聞社発行の月刊誌『ダリネヴァストーチヌイ・カピタル』2004年1月号に掲載された、ロシア極東と韓国及び朝鮮民主主義人民共和国との貿易・投資、経済交流に関する論評（ 、「 ”、《 》、<http://kapital.zrpress.ru/subjnum/2004/0101.asp>）の要訳で、前号(No.58)掲載の続きである。なお、「朝鮮民主主義人民共和国」の表現は、原文に従い「北朝鮮」、又は英略語“PDRK”を使用した。

## 韓国のロシア極東向け直接投資はまだ少ない

沿海地方以外の地域への韓国投資はいくらか控え目である。

ハバロフスク地方では2003年11月1日現在、韓国資本の企業96社が登記され、うち合併企業62社、100%出資企業29社、支店5であった。2001年中に設立された韓国出資企業は3社であったが、2002年には4社、2003年1～9月には3社増加し、定款資本金総額は2,503万ドルに達したが、2003年6月1日現在、48社だけが営業中で登記企業数の半分になった。主要業種はサービス業(ボーリング・センター、自動車修理センター)、木材加工業、貿易業、薬用植物採取業であった。ハバロフスク地方の韓国出資企業で最も成功したのは、1993年から家具製造、観光業、生活サービス・コンサルタントを営業している(有)マキト社である。レクレー

ション、スポーツ施設の(株)ダリウー社も9年を経過した。6年を経過した(有)インテルサドコ社はアルミ建材の製造・設置を営業している。(有)ドカシ社は1999年に設立されたハバロフスク地方で最初のボーリング・センターで9レーンの設備と整備されたカジノ、バーを営業している。(株)デムキム社は2001年に開設されたスポーツ・センターである。

サハリン州では韓国企業の大型投資はまだ見られないが、サハリン石油・ガスへの関心が高まり韓国ビジネスも活発化している。2002年のサハリン向け韓国投資額は710万ドルで、外国投資総額の約1%、2003年1月1日現在、韓国の投資累計額は660万ドル(外国投資累計総額の0.2%)であった。サハリン州で登記された定款資本金総額1,820万ドル(出資比率50.4%)の韓国出資企業64社の

うち、韓国100%出資企業は14社で、その半分が商業仲介業、残りは木材、漁業、レストランである。

**サハ共和国（ヤクーチア）**では、1994年に(株)ヤクーチア石炭とLG International Corp が設立した採炭・精炭業の(有)エレル社だけが営業中である。2002年、同社は韓国向けに476,854トン、日本向けに284,298トンを輸出した。日本側のパートナーは住友商事である。過去2年間、韓国の投資はなかったが、2003年1月1日現在、サハ共和国向け韓国投資累計額は431.5万ドル（外国投資累計総額の0.7%）であった。2002年、サハ共和国アキモフ副大統領が韓国のイニ・スチール社代表団と会談したが、同社はケーブル製造の大企業で、年間800万トン以上の金属屑を処理して37種類の製品を生産し、サハ共和国での事業に関心を示し、市街地に放置された大量の金属を見て驚いたという。

**カムチャッカ州**には韓国出資企業17社が登記されているが、外国出資企業の総数は120社もある。2002年末現在、韓国出資の9社が営業中で、うち100%出資企業が3社であった。主要業種は卸・小売商業、運送サービス、魚類・海産物採取及び加工・販売・輸送、鉄屑輸出等である。1999～2002年間にカムチャッカ州には1億7,645万ドルの外資が流入したが、そのうち韓国資本は664万ドルで総額の3.8%であった。2003年1～9月間の外国投資は4,219万ドルで韓国資本は144万ドル（3.4%）であった。韓国のカムチャッカ州向け投資の大部分は、輸出相手に対する漁業製品調達用のクレジットである。カムチャッカ州行政当局は繰り返して優先的プロジェクトを提案しているが、まだ一つも注目されていない。

**アムール州**では、韓国が130万ドル出資した穀類・大豆栽培の共同出資企業が1社営業しているが、成功していない。アムール州行政当局の専門家によると、ロシア側の設立者は韓国の出資金を先進

的な大豆栽培の普及に使用していない。2003年夏、韓国・京畿道の企業が参加した飼料生産の共同企業が出現した。家畜はたくさんいたが十分な飼料の生産はできなかった。ロシア側の出資者はベルゴールスク地区の農園がパートナーに選定され、初期資金が割当てられ、アムール州知事も共同企業の設立を支持した。

### ロシア極東における韓国の海運と航空路

極東連邦管区では、シベリア鉄道とバム鉄道に連結する港湾がある沿海地方とハバロフスク地方が有利な立場にある。釜山、馬山、ヴァストーチヌイ、ウラジオストクの港湾間には定期航路があり、FESCO(株)極東海運)とSOFCOMFLOTが毎週、コンテナ輸送サービスを提供している。ヴァストーチヌイ港にもコンテナ定期便である、「幹線コンテナ・ライン」と「ドングナマ・ SHIPPING・カンパニー」の2つのオペレーター（ロシアの民間貨物輸送企業）があり、その機能は好調で取扱量も増加し、中国、台湾にもルートを延長している。2000年4月からザルビノ港と東草（ソクチョ）間に定期貨客船が就航し、2003年11月7日からウラジオストク港まで延長された。ハバロフスク地方でもワニノ～釜山間、ソビエツカヤ・ガワニ～釜山間の定期航路が運行されている。

ウラジオストク～ソウル間の定期航空便はKOREAAIRが運営している。(株)ウラジオストク・アヴィア社にはソウル便と釜山便があり、ユジノサハリンスク便もある。1991年からハバロフスクの(株)ダリアヴィア社がハバロフスク～ソウル便を運行し、1994年からは韓国アセアナ航空も参入した。2002年には週2回のハバロフスク～ピョンヤン便が就航し、ハバロフスクには北朝鮮の航空会社エルコリョー社の事務所が開設された。

## 南北朝鮮鉄道

ロシアと南北朝鮮との協力への広大な展望は、南北朝鮮鉄道とシベリア鉄道が連結してから開かれるだろう。南北朝鮮鉄道の再建プロジェクトは、2002年8月のウラジオストクにおけるプーチン大統領と金正日主席との会談で政治的に決定された。これにより、韓国は貨物到着時間を短縮して海上輸送よりも有利なヨーロッパとの陸上ルート of 便宜を受け、PDRK(北朝鮮)は隣国との一層密接な連絡と貨物通行料を受け取れる。2003年中にこのプロジェクトは積極的に検討されただけでなく実質的にも前進した。2003年12月、「極東鉄道プロジェクト」研究所と極東鉄道(株)ロシア鉄道・支社)の専門家約100人が特別列車でロシアに帰国したが、彼らは数ヶ月間にわたり、南北朝鮮鉄道の再建計画作成のため測地及び地質調査を実施した。図們江(トゥマンガン)~平壤(ピョンヤン)単線電化鉄道線区の延長は767kmで、軌道幅(ゲージ)は1 435mm(ロシアは1 520mm)である。この線区には約140駅があり、各駅の貨物発着側線は300~800mなので、現在の大型車両による貨物処理作業には不十分である。運行速度は時速30km以下であるため、複雑な起伏に制約される。線区には、橋梁742、トンネル130と多くの土木建造物があるが、保線上の技術的状态は悪く、腐食した木製枕木の80%、橋梁の柱間部、橋梁支柱の取替えが必要である。図們江(トゥマンガン)~平壤(ピョンヤン)間の単線は電圧33kwの直流で電化されているが、現代的な信号や通信施設がない。大きな駅には電気転轍機設備があるが、残りの駅は手動転轍である。従って、PDRK(北朝鮮)では、新たに現代的な鉄道施設を建設しなければならない状況にある。しかし、誰がこの資金を負担するのか?という問題が出てくる。2003年、ロシア交通省はPDRK(北朝鮮)との国境駅ハサンからウスリースクまで240km

の線路再建と現代化資金30億ルーブルの配分を明らかにした。周知のように新年直前、韓国とPDRK(北朝鮮)は、信号及び通信システム、並びに両国間の非武装地帯を横断する鉄道線路向けの送電線を2004年第2四半期に建設する協定に調印した。極東鉄道の広報部が報道したように、フィージビリティ・スタディ作業は(株)ロシア鉄道が担当し、南北朝鮮鉄道の建設費金は2004年1月に決定される。同社はプロジェクト計画作成に5億ルーブルをすでに配分され2004年1月中に作成作業が終わる。

## 北東アジアの電力貿易

最近数年間に、北東アジア諸国の科学者や研究所が国家間の電力網プロジェクトを研究してきた。ロシア、日本、中国、モンゴール、韓国、PDRK(北朝鮮)の6ヶ国の電力システム統合案が研究され、国際会議において繰り返し検討されてきた。最近では2003年4月、ウラジオストクで国連主催の太平洋経済協力会議があった。この会議では、ロシア極東の電力システムとPDRK(北朝鮮)及び韓国の電力システムの結合が、北東アジアの最初の電力システム統合になり得る、と指摘された。

## 韓国のロシア極東投資の展望

沿海地方とロシア極東への韓国の投資は、ナホトカのロシア・韓国工業団地プロジェクトが実現すれば、もっと増やせるだろう。このプロジェクトは、エリツイン大統領が韓国を訪問した1992年に初めて話題になったが、事業はすぐには始まらなかった。1999年5月28日、金大中韓国大統領がモスクワを訪問したとき、「ナホトカ自由経済地域におけるロシア韓国工業団地設置協定」が調印され、韓国は1999年中にこの協定を批准した。ロシアでは通常の承認手続きがとられたが、政府内

で多くの法律、特に税法の修正が必要である、という反対意見があり、1995年に「自由経済地域に関する法律」が立案されたが、議会の承認がないまま選挙になり、新議会はこの法案を審議しなかったのである。

### 友好と変化を求める北朝鮮

鉄道と電力プロジェクトは、最近まで閉鎖されていた北朝鮮を協力を引き込んだ。世界の多くは、共産主義のPDRK(北朝鮮)を北東アジア緊張の要素とみなしている。アメリカはPDRKの核武装解除計画を立案し、その実現に核大国であるアメリカ、フランス、ロシア、中国、イギリスを引き込んだ。90年代のロシアと北朝鮮の関係には国家首脳の政治的接触がなかったので、平坦ではなく対立もしてきた。その頃、ロシアのPDRK協力には主として沿海地方とハバロフスク地方が実施していた。また、ハバロフスク地方とアムール州の林業には、約40年間も北朝鮮労働者が働き北朝鮮は労働賃金として木材を受け取っていた。貿易は小規模で品目も少なく、沿海地方の輸出品はセメント、石炭、鉄鋼、魚類・海産物で、北朝鮮の輸出品は昆布とメリヤスであった。

ロシアと北朝鮮の新たな交流拡大は、最高レベルの会談後に始まった。2000年6月、プーチン大統領が北朝鮮を公式訪問し、その後、プーチン大統領が北朝鮮の指導者金正日と2001年モスクワで、2002年夏ウラジオストクで、2度も会談して政治的な友好、協りに合意した。また、2国間の貿易・経済と科学・技術交流の拡大も決められた。

ロシア極東連邦管区ではプリコフスキー全権代表は何度か北朝鮮を訪問し、金正日のロシア訪問に随伴した。相互訪問は活発になったが、協力の成果はまだ目立っていない。2001年、ロシアと北朝鮮の貿易は1億1,500万ドル、2002年は1億3,900

万ドルにすぎなかった。しかし、北朝鮮側は近い将来、貿易を10倍に増加し、伝統的な相手である沿海地方とハバロフスク地方だけでなく、ロシア極東の他の地域とシベリアにも取引を拡大しようとしている。北朝鮮は、石油及び石油製品、建築用木材、コークス炭と交換に、金属切削工作機械、マグネシウム・クリンカー、圧延鋼材、バッテリー、果物、海産物の輸出を申し入れている。

沿海地方とハバロフスク地方は、PDRK(北朝鮮)と貿易、労働力利用、観光という多様な分野で協定を結んでいる。PDRK(北朝鮮)には環境のよい保養地が多く、人々はロシア語を話し、費用は韓国の半分で、中国よりも30~40%も安い。しかし、ロシアの多くの政府職員やビジネスマンは北朝鮮がバーター取引を好んでいるとして、今後の見通しを控え目に評価している。また、北朝鮮は協力を望んでいるのに情報を公開しないため、交渉に困難な問題もある。行政当局に協力の相手方の紹介を依頼すると、党と政府の指示に慣れた北朝鮮当事者は、ロシアではそういう時期が過ぎ去り、政府職員が当事者の利益にならないことを指示できないことを理解できない。北朝鮮を訪問した人は、まだチャンスは少ないが、大きな可能性への一歩を踏み出したと指摘している。北朝鮮はロシア極東の展示会に参加し、軽工業品、イタリアの技術で製造された楽器、漢方薬、防水塗料のような自国製品を売り込んでいる。最近の情報によると、ハバロフスクでは北朝鮮製軽工業品の販売店が開店し、ウラジオストクでは2004年に大型小売店「ピョンヤン」が開店する。また、ロシア、韓国、北朝鮮が参加する大型協力プロジェクトが、ロシア極東の経済発展に新たなインパクトをもたらさだろう。